

女性起業家を

ネットワークでつなぐ

合同会社VALN代表 菊地真紀子さん

幾つもの肩書きを持つ菊地さんが2010年4月資本金百万円で起業したのが合同会社VALN(バルン)。出産・子育てのためにキャリアを断念せざるを得なかった女性たちの潜在能力や、地域の中で自分らしく働きたい女性たちのプチ起業をネットワークで結び、大きく社会に貢献できるビジネスモデルを目指しています。合同会社としたのは自立した個人事業主の各ネットワークをお互いに活用するため。

仕事絶頂期の病気が転機に

菊地さんの経歴を伺いました。大学を出て大手化粧品会社に就職。商品企画やマーケティングなどの華やかな業務を思い描いていたのに配属は労務課。

「二日で嫌になって」1年で退社。「手に職」をと、専門学校で学び直し、26歳でイ

ンテリアの仕事に就きました。その1年

後には全国の住宅展示場のインテリアを手掛ける会社の取締役の大抜擢。仕事が面白く30歳でフリーに転身。35歳で(株)アロメインテリアを興すまでは順風満帆。この時期、キャリアアップを目指す女性支援の研修企画やセミナー開催も手がけます。

ところが40歳で思いもかけず病に。1年間働けなかった期間、「ひとりではなくチームで」を考えるようになった菊地さん。思えば、自分は大田区生まれの大田区育ち、地域のために役に立ちたいと



の気持ちを強めます。

そんな折、エセナおおたでの「子育て家族応援わいわいEXPO2009」実行委員長を務める機会に恵まれました。続いてプチ起業講座の講師も務め、「社会参画はしたい、でも…」というママたちの実情を知ることになったのです。事業継承が難しくなっている工場、元

気のない商店街など、地域の課題解決に向けて、これまで培ってきた幅広い人脈と女性たちの力を束ね、それを「ボランティアでなくビジネスにしたい」と熱く語る菊地さん。目下、蒲田の商店街空き店舗を利用したコミュニティ&インキュベーションセンター設立の準備を進めています。

セミナーでネットワークづくり



漠然とした自分の「夢」の先にある起業を具体化したい。そのためにはじっとしては駄目と、女性たちがまず選ぶのは「学ぶ」こと。

定員30名に対し90名近い応募があったのは「プチ起業家になるためのファーストステップセミナー」。2011年末にエセナおおたで開催された4回連続講座は、区民との協働事業の一環として、特に区民の自主活動の育成と男女共同参画の実現を目的とした講座実施を支援しようと大田区が公募したものです。

参加者たちが「起業」を考える理由は様々ですが次の2つに集約されるようです。

- ①家庭と仕事を両立する働き方で自己実現をしたい
- ②生活の中の不便さや困ったことを解決するアイデアをビジネスにしたい

「4人の講師の方がとても身近になり、目標となりました」という感想も聞かれ、「起業」のヒント以外にも、「起業」のロールモデルを参加者は求めているようです。起業する意思のはっきりしている人も漠然としている人も、同じように講師たちの起業への情熱に刺激され、グループワークで自分の「夢」を口にすることでお互いに刺激し合い、起業を具体化する最初の一步の手掛かりを見つけました。一個人ではハードルが高いけど、仲間と一緒になら挑戦できると勇気をもった人もいたでしょう。講座後、お互いのネットワークを大切にしようと、有志で情報交換の場や学習会、親睦会、わいわいフェスタやエセナフェスタでの出店など、さまざまな企画や実施に向けて活動を始めるなど、多くの人にとって、講座の終了は到達点ではなく、出発点となっていたようです。

女性の起業への興味関心が高い今、男女共同参画の視点を持ったこうした起業支援講座への期待がますます膨らみます。